

独立行政法人 自動車事故対策機構
 被害者援護部 高瀬、三崎
 電話 03(5608)7638

ナスバ療護施設の治療・看護等の成果を公表します！！ ～4人に1人以上が最重度障害から「脱却」～



ナスバ療護施設での治療・看護



- 独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）では、全国に療護施設を設置・運営*1し、自動車事故により重度の意識障害となった患者（遷延性意識障害者*2）に対して適切かつ質の高い治療・看護等を実施しております。

*1 参考資料

*2 脳損傷により自力移動・摂食が不可能であるなどの最重度の後遺障害者

- 昭和59年2月の千葉療護センターの開設以降、各療護施設へ入院した患者のうち、運動・認知機能等を顕著に回復させ遷延性意識障害から「脱却」した患者は498名*3 *4にのぼり、入院患者累計1,865名*3 の約27%、つまり約4人に1人以上が療護施設での治療・看護により「脱却」したことになります。

*3 昭和59年2月～令和5年1月までの累計値

- 各療護施設における治療・看護等に関し、ナスバスコア*4の改善状況は以下のとおりです。（詳細は別紙）

- ① 入院時に対して、退院時のナスバスコア平均値が減少している。
- ② 重症度別にみた場合でも、ナスバスコア平均値はそれぞれ減少している。
- ③ 入院時のナスバスコアが高くとも、事故からの経過期間が短い場合は改善度合が高い。

*4 ナスバスコアとは、遷延性意識障害の重症度を評価する基準。60点～0点で評価し、点数が高いほど重症となります。療護施設には、ナスバスコア30点以上が入院対象となり、一定の意思疎通、運動機能が改善された状態となるナスバスコア20点以下で「脱却」と判断されます。

- ナスバでは、引き続き、ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況の把握を行うとともに療護施設における適切な治療・看護等により、遷延性意識障害者の方々の回復に向け努力して参ります。

ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況

【入院から退院までのナスバスコアの変化(平均値)】

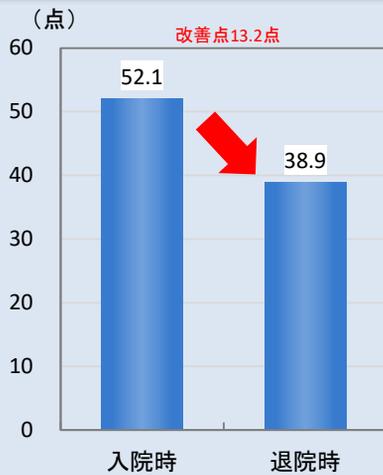
- 平成17年6月1日から令和4年5月31日までの17年間に退院した患者(1,067人)に関しても、平成29年6月1日から令和4年5月31日までの5年間に退院した患者(305人)に関しても、
 - 入院時ナスバスコア平均値に対し、退院時ナスバスコア平均値は減少している。
 - 入院時重症度別にみた場合も、ナスバスコア平均値は減少している。

H17.6.1

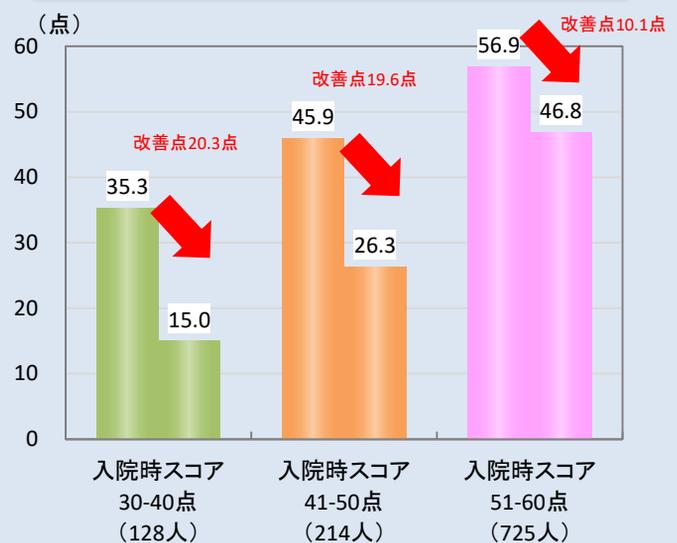
17年間に退院した患者(1,067人)

R4.5.31

入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(1,067人)



重症度別の入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(1,067人)

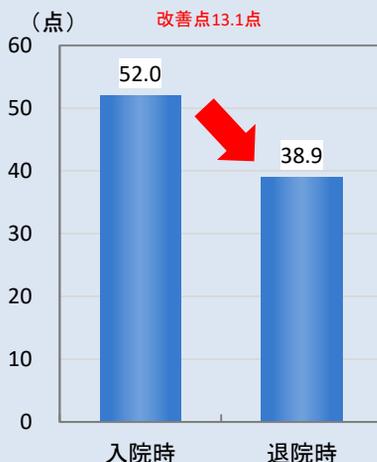


H29.6.1

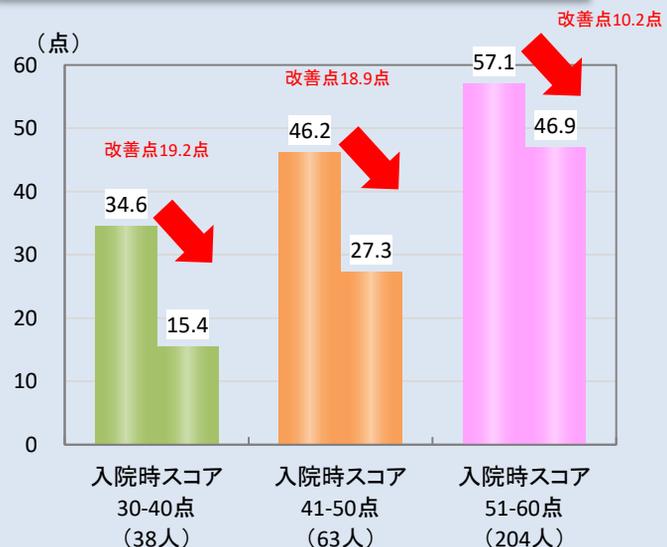
5年間に退院した患者(305人)

R4.5.31

入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(305人)



重症度別の入院から退院までの
ナスバスコア平均値の変化及び改善点
(305人)



※ 改善点とは、入院時点ナスバスコア平均値から退院時ナスバスコア平均値を引いた差分である。

ナスバスコアを用いた入院患者の治療改善状況

【入院から退院までのナスバスコアの変化と事故後経過期間との関連】

- 平成29年6月1日から令和4年5月31日までの5年間に退院した患者(305人)に関して、
- いずれの重症度においても、事故経過期間が短い場合には改善度合が高い。

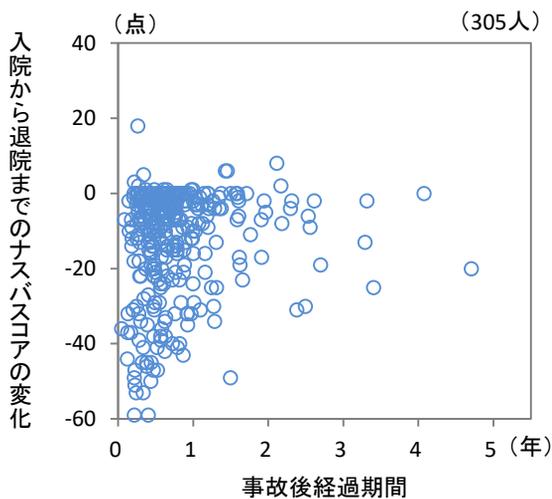
H29.6.1

5年間に退院した患者(305人)

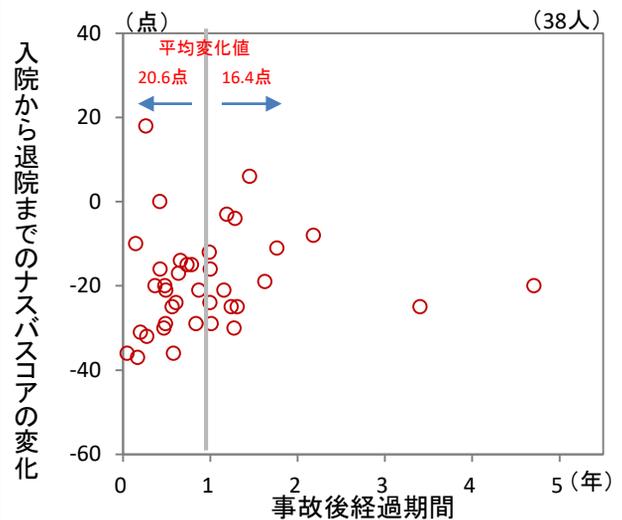
R4.5.31

* 事故後経過期間とナスバスコアの変化について、事故受傷後から入院まで1年未満と1年以上で比較すると、ナスバスコアの平均変化値に表中のような差異が見られる。

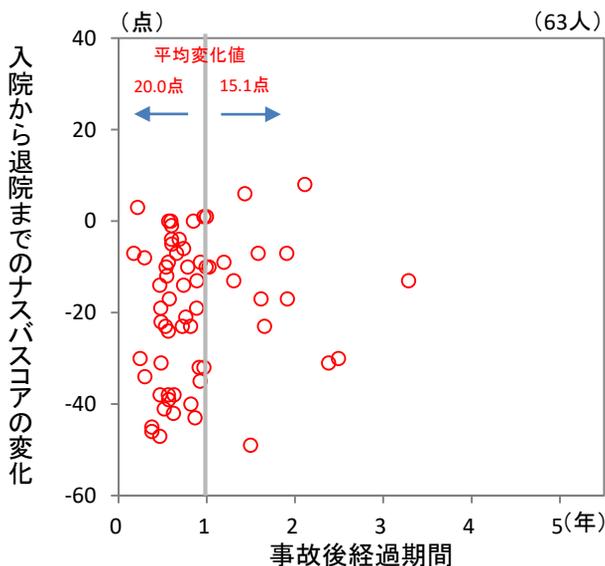
事故後経過期間



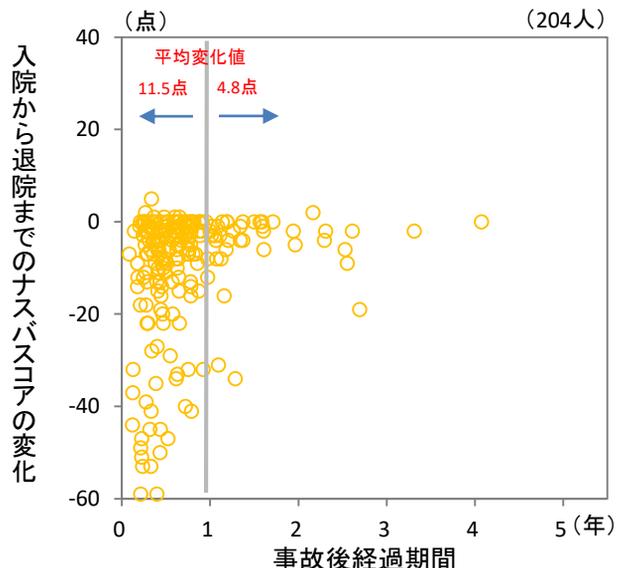
入院時ナスバスコア30~40点



入院時ナスバスコア41~50点



入院時ナスバスコア51~60点



【ナスバ療護施設一覧】



【療護施設の治療・看護の特色】



プライマリー・ナーシング方式

同じ看護師が一人の患者を主担当として継続して受け持つことにより、きめ細やかな看護体制を整備。



高度先進医療機器

治療効果の判定や効果的な治療・看護方法等の策定が可能。

ワンフロア病棟システム

病室の仕切りを最小限とすることで、患者のわずかな意識の回復の兆しを捉えられ、効果的な治療と看護が可能。

